

密着

八戸学院光星の2年ぶりの優勝で幕を閉じた第100回全国高校野球選手権記念青森大会。59チームが甲子園を目指し、県内4球場で連日熱戦を展開。はつらつとしたプレーや逆転劇に来場者も大きな歓声を送り、多くの感動を呼んだ。選手、補欠部員、応援団、試合補助員…。大会2日目となった10日の八戸市の長根球場で、それぞれの「青春のこころ」を追った。

高校野球

◆10日午前6時45分
開幕戦は青森市営球場で行われたため、長根球場で初めての試合となったこの日、午前9時のプレーボールを前に早朝から、続々と関係者たちが集まり始めた。

試合のないチームは、試合運営を補助するスタッフとして参加。青森県立八戸高、八学光星高の選手たちはグラウンドに入り、球場運営会社「エスプロモ」のスタッフたちとライン引きを始めた。前日には小雨が降っていたこともあり、塁上に掛けていたシートを外してスポンジで吸水。フェアウルフボールを拾うボールボーイ用の椅子とヘルメットも設置した。スタンドの座席もぬれていたため、雑巾で丁寧

に拭き取るなど、着々と準備を進めた。写真①。県立八戸東高の選手たちは、チケットの販売

に引き続き、着々と準備を進めた。写真①。県立八戸東高の選手たちは、チケットの販売

小嶋嘉文

やチエック係として各所に配置された。
◆10日午前7時15分
この日の第1試合で対戦する県立八戸工業高、松風塾高の選手たちが会場入り。到着後、すぐにグラウンドで準備体操をし、ランニングやキャッチボールなどで試合に向けたウォームアップを開始した。

審判員たちも徐々に集まり始めた。長根球場は14人が交代で審判を担当。試合で使用するボールや用具の確認を行った。

◆10日午前8時
初戦に臨む両チームの監督と主将が、本部長に集合。先発メンバーを互いに発表した後、先攻後攻を決めた。

◆10日午前8時
試合前のシートソックがスタート。八戸工の選手たちはグラウンドの感触を確かめるように、軽めの調整をこなした後、陣を組み、互いに声を掛け合いながら試合への士気を一気に高めていた。

◆10日午前8時
試合前のシートソックがスタート。八戸工の選手たちはグラウンドの感触を確かめるように、軽めの調整をこなした後、陣を組み、互いに声を掛け合いながら試合への士気を一気に高めていた。



写真①

「最高の夏に」思い一つ



写真②